

重要項目	1	学力の向上	担当課名
施策目標	(2)	教職員研修の充実	学校教育課
主要事業	①	初任者、2年め、5年め、10年め経験者研修の実施	
年度の目標	研修のねらい、内容、回数等について、より現場の実情や教職員のニーズに応じたものを企画するとともに、キャリアステージに適した校内における自身の役割を意識できるように働きかける。		
計画の概要	<p>府域の教職員の構成は経験年数の浅い教職員が大半を占め、経験豊富ないわゆるベテラン教員の数が激減しており、初任者から10年めまでの教職員の資質向上は喫緊の課題である。本市では、キャリアステージにおける「求める教師像」を明確にし、計画的な育成に努めている。また、各校でも、自身のキャリアを自覚し、具体的な教育実践を行える教職員の育成に努めるよう指導している。</p> <p>【キャリアステージにおける主な研修】</p> <p>初任者研修 授業づくり研修、人権研修、総合学習研修、支援教育基礎研修、児童生徒理解研修 2年め研修 集団づくり研修、社会体験研修、人権研修 5年め研修 人権教育に係る研修、授業づくり研修 10年め研修 郷土教育研修、自然体験研修、支援教育研修、児童生徒理解研修 各校でも校内研修、人権研修など各校の実態や課題に応じて研修を行っている</p>		
活動の実績	<p>初任者研修においては、授業づくりや学級づくりの基本を学べるような研修を組んで、教師として身に付けなければならない人権感覚や児童理解についても学べる研修を行った。</p> <p>2年め研修においては、1年めに学んだ基礎基本を自分なりに一つステップアップできるような研修を行った。</p> <p>5年め研修においては、ミドルリーダー育成研修と位置付けた内容を盛り込み、自身の位置づけを明確に意識させるとともに、今後を見据えて、自身が担うべき役割を意識させながら、初任者への模範授業を示し、協議する研修を行った。</p> <p>10年経験者研修においては、初任者と一緒に参加する選択研修の中で、ミドルリーダーとして10年のキャリアを活かしながら初任者へアドバイスできる環境を整えた研修を行った。</p> <p>また、各々のキャリアステージ研修において、「メンター・メンティー(注1)」研修や「OJT(注2)」を活用した研修など、日々の学校現場での研修も充実させることができた。</p> <p>(注1)メンター・メンティー:先輩職員(メンター)が特定の後輩職員(メンティー)に対して知識の技能支援を行う。 (注2)OJT:On-the-Job Training:職場で実務を実行させることで行う職業教育。</p>		
実績の評価	評価の内容		
A	教職員の多忙化解消を意識し、校外研修の回数を増やすことなく、内容の充実を図ることができた。研修後の「ふりかえり」においても、自己の成長や各々の年代やキャリアにふさわしい内容の自己評価が得られたことから、評価をAとする。		
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳
			国府支出金 地方債 その他 一般財源
27	195 千円	131 千円	0 千円 0 千円 0 千円 131 千円
28	195 千円	60 千円	0 千円 0 千円 0 千円 60 千円
29	195 千円	135 千円	0 千円 0 千円 0 千円 135 千円
現状の課題			
市としての明確な人材育成システムの構築し、キャリアステージの応じたスキルアップ等教職員の意識を向上させる。ミドルリーダーを学校組織で育成していく意識と体制づくりをする。			
今後の取組み			
キャリアステージと学校の実情に応じた研修を計画、実施する。 他校の授業等を見学し合えるよう、情報共有を図る。 授業のユニバーサルデザイン化や主体的、対話的で深い学びの視点から授業改善に取り組むとともに、「四條畷市授業モデル」を意識づけていく。			

重要項目	1	学力の向上	担当課名			
施策目標	(3)	ICT環境の整備	教育総務課			
主要事業	①	ICT環境整備				
年度の目標	子どもたちが将来にわたり国際社会に貢献し未来を担っていくため、情報活用能力を育成する。また、ICT機器を効果的に活用し、子どもたちの学習への興味関心を高め、子どもたち主体のわかりやすい授業づくりをめざす。さらに、校務の情報化を推進し、教育の質の向上を行う。					
計画の概要	中学校に校務用端末機器を追加し、教員一人に1台の使用をめざす。 小学校で無線LAN環境を強化し、ストレスなくICT機器を使用できるようにする。 教職員向けのICTに関する研修を実施する。					
活動の実績	四條畷西中学校に31台の校務用端末機器を追加し、教員一人にほぼ1台とした。校務用パソコンの効果検証したところ、ペーパーレス化、イベントの情報把握や共有、情報管理のネットワークづくりができた。ICT機器を効果的に活用した授業を行うため、くすのき小学校でアクセスポイントを強化し、普通教室、特別教室でタブレットがストレスなく使用できるようにした。 教員が困った時に相談ができ、安心して指導ができる環境づくりに必要なICT支援員を雇用し、学校現場においてICT支援を行った。ICT機器を活用した授業の増加や学校HPの充実等、教員のICT機器の活用に対する自信や意識の向上につながった。 ICT支援員 1人 雇用期間 平成29年7月1日から平成30年3月31日まで					
実績の評価	評価の内容					
A	各校でICT機器を効果的に活用した授業づくりの研修や実践交流等を行い、授業に役立てることができたため、基準どおり達成したとし、評価をAとする。					
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳			
			国府支出金	地方債	その他	一般財源
27	31,968 千円	31,624 千円	31,624 千円	0 千円	0 千円	0 千円
28	5,308 千円	5,267 千円	0 千円	0 千円	0 千円	5,267 千円
29	9,173 千円	7,010 千円	0 千円	0 千円	0 千円	7,010 千円
現状の課題						
四條畷市立小中学校のICT環境整備計画を策定し、タブレット端末や校務用端末の購入をはじめ、プロジェクタ機器の整備、無線アクセスポイントの強化等を行ってきた。しかし、ICT機器及び周辺機器については、当初導入した機器が耐用年数を迎えるとともに、学校が独自で整備した機器等の管理体制が整っておらず、セキュリティ面での課題を有している。また、独自で整備を進める学校とそうでない学校との間で整備状況に差が生じている。						
今後の取組み						
次期学習指導要領に沿った授業を行うため、ICT機器に関し、小学校は2019年、中学校は2020年度に重点を置き、優先順位を踏まえた計画的な整備を進める。ただし、早急な対応を要するものについては、一斉の整備を行うこととし、端末等の機器に関しては5年間の耐用年数を踏まえ、リース契約を含めた検討を行う。						

重要項目	2	支援教育の深化	担当課名
施策目標	(1)	スムーズな就学、進学、個に応じた支援の充実	学校教育課
主要事業	①	支援学級設置、通級指導教室設置、学校支援員及び介助員の配置	
年度の目標	障がいのある児童、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて、適切な指導及び支援が効果的に、系統的に行われるよう、学校内の支援体制を整備し、支援教育を充実させる。		
計画の概要	<p>障がいのある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細かな情報提供と指導の、幼児期から中学校卒業後までを見通した一貫した支援が組織的、計画的、継続的に行われるよう「個別の教育支援計画」(注1)及び「個別の指導計画」を作成し、効果的な活用に向けて充実を図る。</p> <p>各校の支援教育の推進と充実、及び支援学級担任の資質向上のための研修等を計画立案する。</p> <p>支援学級在籍児童生徒の学校生活の安全確保や学びを支援するため、学校支援員を各校1人、また、児童生徒の状態や在籍数に応じて介助員及び看護師を配置する。</p> <p>通級指導教室を3小学校1中学校に設置し、個に応じた指導をきめ細かに行っていく。</p> <p>(注1)個別の教育支援計画:障がいのある子どもの乳幼児期から学校卒業までを見据えて、関係機関と連携し、一貫した支援を行うことを目的として作成する計画のこと。子どもの実態をつかみ、保護者の思いを反映させたものであり、主たる障がいに伴う困難さの改善又は克服に向けての目標(短期、中期、長期)などを記載。</p>		
活動の実績	<p>支援学級を小学校に38学級(188人)、中学校に13学級(54人)を設置し、種別に応じたきめ細かな支援を行った。</p> <p>学校支援員(注2)11人、介助員(注3)18人、看護師(注4)3人を配置し、支援学級担任と共に、支援学級在籍児童の安全確保と学びの支援を行った。</p> <p>担任と保護者の協議により「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を作成し、児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細かな指導を行い、スムーズな引継ぎにつなげた。</p> <p>通級指導教室では、小学校3教室(52人)、中学校1教室(13人)に対して、発達段階に応じた支援を行うことができた。</p> <p>(注2)学校支援員:障がいのある児童生徒への対応を含む教育指導全般の支援を行う者。(市費配置)</p> <p>(注3)介助員:主として障がいのある児童生徒への介助(トイレ介助や移動介助等)を行う者。(市費配置)</p> <p>(注4)看護師:主として障がいのある児童生徒の医療的ケア(注5)及び介助を行う者。(市費配置・府補助と国補助あり)</p> <p>(注5)医療的ケア:児童生徒に導尿や胃ろうなどを、医師の指示により、看護師が学校等で行うこと。</p>		
実績の評価	評価の内容		
A	障がいのある児童、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて、適切な指導及び支援が効果的に行われるよう、学校内の支援体制を整備し、支援教育の充実を図ることができたことから、評価をAとする。		
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳
			国府支出金 地方債 その他 一般財源
27	26,491 千円	26,491 千円	0 千円 0 千円 0 千円 26,491 千円
28	25,658 千円	25,658 千円	0 千円 0 千円 0 千円 25,658 千円
29	30,470 千円	28,664 千円	0 千円 0 千円 0 千円 28,664 千円
現状の課題			
幼児期から中学校卒業後までを見通した一貫した支援が組織的、計画的、継続的に行われるような「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を作成し、効果的な活用を推進させることが必要である。			
今後の取組み			
障がい種別に応じた学級設置や、学校支援員や介助員を適切に配置し、学校全体の支援体制の充実を図る。また通常の学級や学校全体で支援教育に取り組めるような環境づくり、教職員の意識づくりの推進や専門性の向上をめざした研修の実施を行う。「個別の教育支援計画」(「つながりシート」+「さぼーとシート」)について、より良い指導、支援を継続的に行えるツールを作成、活用してより実効性のある取組みへとつなげていく。			

重要項目	3	読書活動の拡充	担当課名																																
施策目標	(1)	市立図書館の読書活動の推進	図書館																																
主要事業	①	市立図書館の取組み																																	
年度の目標	①多様化する読書ニーズにあった資料を収集提供することにより、図書館利用の促進を図る。 ②一般の利用者も参加できるようなイベントを開催する。																																		
計画の概要	①新刊書を中心に収集して蔵書の充実を図るとともに、予約や他市からの取寄せ、テーマ展示など、各種サービスの向上に努め、市民の読書活動を推進する。 ②ビブリオバトル(注)や館内コンサート、ビデオ上映会等を開催し、幅広い層の図書館利用の促進を図る。 (注)ビブリオバトル:本の紹介を通したコミュニケーションゲーム。知的書評合戦とも呼ばれる。発表者全員が順番に本を紹介した後、観戦者・発表者を含めて全参加者が「どの本が一番読みたくなったか」を投票。最多得票の本が「チャンプ本」となる。																																		
活動の実績	①多様な読書ニーズに対応できるように資料の充実と提供に努めた。本市で所蔵していない本については予約を受け付け、購入または他市からの借用により提供するよう努めた。																																		
	<table border="1"> <caption>蔵書冊数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>27</th> <th>28</th> <th>29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般書</td> <td>194,649</td> <td>195,360</td> <td>198,487</td> </tr> <tr> <td>児童書</td> <td>55,676</td> <td>56,230</td> <td>57,744</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>250,325</td> <td>251,590</td> <td>256,231</td> </tr> </tbody> </table>	年度	27	28	29	一般書	194,649	195,360	198,487	児童書	55,676	56,230	57,744	合計	250,325	251,590	256,231	<table border="1"> <caption>個人貸出点数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>27</th> <th>28</th> <th>29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>貸出総数</td> <td>355,742</td> <td>350,123</td> <td>349,521</td> </tr> <tr> <td>うち児童書</td> <td>118,082</td> <td>119,717</td> <td>122,564</td> </tr> <tr> <td>うち広域貸出</td> <td>28,053</td> <td>27,995</td> <td>27,570</td> </tr> </tbody> </table>	年度	27	28	29	貸出総数	355,742	350,123	349,521	うち児童書	118,082	119,717	122,564	うち広域貸出	28,053	27,995	27,570	
年度	27	28	29																																
一般書	194,649	195,360	198,487																																
児童書	55,676	56,230	57,744																																
合計	250,325	251,590	256,231																																
年度	27	28	29																																
貸出総数	355,742	350,123	349,521																																
うち児童書	118,082	119,717	122,564																																
うち広域貸出	28,053	27,995	27,570																																
	<table border="1"> <caption>市民一人当たりの貸出点数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>26</th> <th>27</th> <th>28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本市</td> <td>6.26</td> <td>6.33</td> <td>6.26</td> </tr> <tr> <td>全国平均</td> <td>5.39</td> <td>5.41</td> <td>5.26</td> </tr> </tbody> </table> <p>※全国平均は、全国の四條畷市と同規模(人口5万以上6万未満)自治体の平均</p>	年度	26	27	28	本市	6.26	6.33	6.26	全国平均	5.39	5.41	5.26	<table border="1"> <caption>市民一人当たりの資料費(円)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>26</th> <th>27</th> <th>28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本市</td> <td>223</td> <td>223</td> <td>224</td> </tr> <tr> <td>全国平均</td> <td>259</td> <td>260</td> <td>256</td> </tr> </tbody> </table> <p>※全国平均は、全国の四條畷市と同規模(人口5万以上6万未満)自治体の平均</p>	年度	26	27	28	本市	223	223	224	全国平均	259	260	256									
年度	26	27	28																																
本市	6.26	6.33	6.26																																
全国平均	5.39	5.41	5.26																																
年度	26	27	28																																
本市	223	223	224																																
全国平均	259	260	256																																
	②一般の利用者に参加いただけるイベントを開催し、市広報やホームページへの掲載、また館内ポスターの掲示等のPRに努め、幅広い層に参加していただくよう図った。																																		
	<table border="1"> <caption>ビブリオバトル (定員:各回30人)</caption> <thead> <tr> <th>開催数</th> <th>場所</th> <th>参加者計</th> <th>うち発表者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>本館3、田原1</td> <td>44</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table> <p>※昨年度は、参加者数69人、うち発表者22人</p>	開催数	場所	参加者計	うち発表者	4	本館3、田原1	44	20	<table border="1"> <caption>本の森コンサート(館内コンサート)</caption> <thead> <tr> <th>開催数</th> <th>場所</th> <th>参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>田原</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table>	開催数	場所	参加者	1	田原	45																			
開催数	場所	参加者計	うち発表者																																
4	本館3、田原1	44	20																																
開催数	場所	参加者																																	
1	田原	45																																	
		<table border="1"> <caption>ビデオ上映 (定員:各回20人)</caption> <thead> <tr> <th>開催数</th> <th>場所</th> <th>参加者計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>田原</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table>	開催数	場所	参加者計	3	田原	11																											
開催数	場所	参加者計																																	
3	田原	11																																	
実績の評価	評価の内容																																		
B	①蔵書冊数が増加してことに加え、市民一人当たりの貸出点数も全国平均を上回っている。計画的な図書購入と積極的な資料提供に努めた結果と考える。 ②イベントについては、館内コンサートは盛況であったが、ビブリオバトルとビデオ上映会は定員を大幅に下回る参加者数であった。 ①、②を合わせて考慮すると達成基準をやや下回ると判断したことから、評価をBとする。																																		

年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳			
			国府支出金	地方債	その他	一般財源
27	10,103 千円	10,102 千円	0 千円	0 千円	0 千円	10,102 千円
28	10,085 千円	10,085 千円	0 千円	0 千円	0 千円	10,085 千円
29	10,331 千円	10,331 千円	0 千円	0 千円	0 千円	10,331 千円
現 状 の 課 題						
<p>市民一人当たりの貸出冊数は全国平均を上回っているが、本市の数値としては伸び悩んでいる。児童書の貸出点数は増加しているので、一般書の利用促進が課題と考える。また、イベントについても一般向けイベントの参加者数が伸び悩んでいる。</p>						
今 後 の 取 組 み						
<p>今後も多様な市民ニーズに対応できるように、新刊書を中心に幅広い資料収集に努める。一般書の利用促進を図るため、図書館利用及びイベント開催のPR方法の工夫を行う。</p>						

重要項目	3	読書活動の拡充	担当課名																																														
施策目標	(2)	第2次子ども読書活動推進計画に基づく取組み	図書館																																														
主要事業	①	市立図書館における子どもの読書活動推進の取組み																																															
年度の目標	<p>①絵本を開く楽しいひと時を赤ちゃんと分かち合っ(share books)もらうため、乳幼児の健診時に絵本を贈呈する「ブックスタート事業」(注1)を実施する。</p> <p>②4月23日「子ども読書の日」(注2)の啓発と、地域における子どもの読書活動の推進を図るため、教育部の関係各課や施設、その他ボランティア団体や子育て総合支援センター等と協力して「こども読書週間スタンプラリー」を開催する。</p> <p>③中学生向けの読書推進イベントを開催する。</p> <p>(注1)ブックスタート:イギリスのブックトラストが中心となり、1992年にバーミンガムで始められた、絵本を開く楽しいひと時を赤ちゃんと分かち合おう(share books)という取組み。日本では、2000年の「子ども読書年」に紹介されたことがきっかけとなり全国的に広がり、主に図書館や保健センター、ボランティアなどが連携して、絵本などが入ったブックスタートパックを赤ちゃんのいる家庭にプレゼントする形で実施されている。本市では、平成19年4月、第1次子ども読書活動推進計画の主要な取組みとしてスタートした。</p> <p>(注2)子ども読書の日:平成13年に定められた子ども読書活動の推進に関する法律の第10条において、4月23日は子ども読書の日とされた。国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもの読書意欲を高めることをねらいとする。</p>																																																
計画の概要	<p>①保健センターで毎月開催される4か月健診に図書館職員が出張し、保護者にブックスタート事業の趣旨の説明や読み聞かせ、絵本についての相談等を行い、赤ちゃんに絵本を1冊ずつプレゼントする。 ・日時:毎月第1木曜日(午前)年間12回 ・対象:4か月児健診対象の乳児と保護者</p> <p>②こども読書週間スタンプラリー実施期間中に対象イベントに参加するとスタンプラリー台紙にスタンプを押す。スタンプを2つ集めた子どもにプレゼントを渡す。対象イベントについては、他部署や他施設、またはボランティア団体等と連携して市内各所で開催する。 ・期間:平成29年4月22日～5月13日 ・対象イベント数:18(参加団体数12)</p> <p>③ビブリオバトル市内中学生大会inなわてを開催し、中学生の読書推進を図る。 ・開催日時:平成29年10月21日(土)午後1時から ・場所:市議会議場及び委員会室</p>																																																
活動の実績	<p>①ブックスタートを年間12回実施し、計370人の子どもに絵本をプレゼントした。併せて、図書館の利用案内や行事のお知らせ、また、絵本のリストの配布や図書館カードの発行等を行い、図書館のPRを図った。</p> <table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <caption>ブックスタート実績</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>27</th> <th>28</th> <th>29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象者数</td> <td>414</td> <td>405</td> <td>389</td> </tr> <tr> <td>プレゼント冊数</td> <td>397</td> <td>404</td> <td>370</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="display: inline-table;"> <caption>0～6歳ののべ利用者数の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>27</th> <th>28</th> <th>29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0～6歳の人口</td> <td>3,084</td> <td>3,039</td> <td>3,009</td> </tr> <tr> <td>利用者数</td> <td>2,575</td> <td>2,729</td> <td>3,359</td> </tr> </tbody> </table> <p>②こども読書週間スタンプラリー:開催期間中に17のイベントを開催し、延べ993人の子どもの参加があった。</p> <table border="1" style="display: inline-table;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>参加団体数</th> <th>イベント数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27</td> <td>10</td> <td>17</td> <td>621</td> </tr> <tr> <td>28</td> <td>12</td> <td>17</td> <td>707</td> </tr> <tr> <td>29</td> <td>12</td> <td>18</td> <td>993</td> </tr> </tbody> </table> <p>③ビブリオバトル市内中学生大会inなわて:市内4中学校から2人ずつ計8人でバトルを行った。第1回開催記念特別企画として、ビブリオバトル考案者の谷口忠大氏による入門講座、サプライズバトルと称して市長と教育長のバトルを実施した。参加者数 (1)入門講座 47人 (2)市内中学生大会 83人</p> <p>参考)学校と図書館が連携したビブリオバトル実施事例</p> <table border="1" style="display: inline-table;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>事例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27</td> <td>くすのき小学校2年1クラス、田原小学校3年2クラス・4年4クラス</td> </tr> <tr> <td>28</td> <td>田原中学校職員研修、ビブリオバトルinなわてイオンモール四條畷未来屋書店決戦(田原中学校生徒3人参加)、くすのき小学校2年2クラス</td> </tr> </tbody> </table> <p>※各小学校での実施は、教員、図書館職員が発表、児童は観戦。職員研修は講座とビブリオバトル体験。未来屋書店決戦は生徒が発表で参加。</p>			年度	27	28	29	対象者数	414	405	389	プレゼント冊数	397	404	370	年度	27	28	29	0～6歳の人口	3,084	3,039	3,009	利用者数	2,575	2,729	3,359	年度	参加団体数	イベント数	参加人数	27	10	17	621	28	12	17	707	29	12	18	993	年度	事例	27	くすのき小学校2年1クラス、田原小学校3年2クラス・4年4クラス	28	田原中学校職員研修、ビブリオバトルinなわてイオンモール四條畷未来屋書店決戦(田原中学校生徒3人参加)、くすのき小学校2年2クラス
年度	27	28	29																																														
対象者数	414	405	389																																														
プレゼント冊数	397	404	370																																														
年度	27	28	29																																														
0～6歳の人口	3,084	3,039	3,009																																														
利用者数	2,575	2,729	3,359																																														
年度	参加団体数	イベント数	参加人数																																														
27	10	17	621																																														
28	12	17	707																																														
29	12	18	993																																														
年度	事例																																																
27	くすのき小学校2年1クラス、田原小学校3年2クラス・4年4クラス																																																
28	田原中学校職員研修、ビブリオバトルinなわてイオンモール四條畷未来屋書店決戦(田原中学校生徒3人参加)、くすのき小学校2年2クラス																																																

実績の評価		評価の内容				
A		子どもへの読書推進を、幼児から中学生まで幅広く行えたことにより、達成基準を満たしたと考えることから、評価をAとする。				
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳			
			国府支出金	地方債	その他	一般財源
27	384 千円	384 千円	0 千円	0 千円	0 千円	384 千円
28	363 千円	363 千円	0 千円	0 千円	0 千円	363 千円
29	349 千円	349 千円	0 千円	0 千円	0 千円	349 千円
現状の課題						
<p>こども読書週間スタンプラリーは地域各地でイベントを開催するため、関係部署や施設、団体と今後も密に連携を取っておく必要がある。</p> <p>ビブリオバトル市内中学生大会は、大会参加者以外の生徒にも普及させていく方策を考える必要がある。</p>						
今後の取組み						
<p>ブックスタートは、市内の4か月健診対象の子ども全員が対象であり、子どもの読書推進には非常に有意義な取組みと考えられるので、今後も継続して実施するように努める。</p> <p>ビブリオバトルは、主体的、対話的で深い学びにつながると考えられるので、今後とも学校と連携して継続実施に努める。</p> <p>こども読書週間スタンプラリーは、地域各地でイベントを開催するため、図書館のPRには非常に有意義なので、今後も継続して実施するように努める。</p>						

重要項目	3	読書活動の拡充	担当課名												
施策目標	(2)	第2次子ども読書活動推進計画に基づく取組み	図書館												
主要事業	②	学校と市立図書館の連携・協力による学校図書館の取組み													
年度の目標	<p>平成27年度から行っている学校図書館支援事業(注1)を継続実施するとともに、平成28年度は3校での支援を、平成29年度は西中校区3校(くすのき小学校、岡部小学校、西中学校)に拡充し、計6校の支援を行う。</p> <p>(注1)学校図書館支援事業:児童、生徒の読書活動の推進を趣旨として、学校と市立図書館が連携して学校図書館の活性化に取り組む事業。取組み内容は、「計画の概要」のとおり。</p>														
計画の概要	<p>市立図書館から小中学校図書館へ職員(支援員)を派遣し、学校図書館の整備や運営等のサポートを行う。</p> <p>勤務は週4日、1日あたり5時間(中学校は4時間)</p> <p>「図書の日」(注2)に本探しのサポートや読み聞かせ等を行い、授業を支援する。</p> <p>業間やお昼の休み時間に開室し、本探しのサポートや貸出等を行う。</p> <p>テーマ展示やイベントや本の取寄せ等を行い、子どもたちの読書意欲の向上を図る。</p> <p>支援拡充3校は、本をより探しやすいように、本の並びの変更やラベルの張替え、書架見出しの作成等を行う。</p> <p>(注2)図書の日:児童が本に触れる時間を設けるため、教員が児童と一緒に来室して行う図書室を活用した授業</p>														
活動の実績	<p>計6校の支援を実施した。(田原小、東小、南小、くすのき小、岡部小、西中)</p> <p>各校4月から支援を開始し、年間を通して図書の日等のサポートや開室などの支援を行った。</p> <p>新規支援開始校は、夏休み等を利用して本の並替えやラベルの貼替えを行うなど、より子どもたちが利用しやすくなるよう整備に努めた。</p> <p>スタンプラリーや読書マラソンのイベントを行い、子どもたちが気軽に来室できる環境の整備に努めた。</p> <p>各校での取組みに生かせるように、定期的に支援員の連絡会を開催して情報交換を行った。</p> <p>支援実施校における休み時間の来室児童数の推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>田原小(27年度～)</th> <th>東小(28年度～)</th> <th>南小(28年度～)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28</td> <td>10,195</td> <td>3,709</td> <td>3,542</td> </tr> <tr> <td>29</td> <td>10,477</td> <td>4,611</td> <td>4,740</td> </tr> </tbody> </table>			年度	田原小(27年度～)	東小(28年度～)	南小(28年度～)	28	10,195	3,709	3,542	29	10,477	4,611	4,740
年度	田原小(27年度～)	東小(28年度～)	南小(28年度～)												
28	10,195	3,709	3,542												
29	10,477	4,611	4,740												
実績の評価	評価の内容														
A	当初の予定通りの整備、運営の支援が行えたので達成基準通りと考えることから、評価をAとする。														
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳												
			国府支出金 地方債 その他 一般財源												
27	1,512 千円	1,477 千円	0 千円 0 千円 0 千円 1,477 千円												
28	3,490 千円	3,490 千円	0 千円 0 千円 0 千円 3,490 千円												
29	5,665 千円	5,223 千円	0 千円 0 千円 0 千円 5,223 千円												
現状の課題															
<p>計6校の支援を行ったが、読書推進の充実には学校図書館図書標準冊数(注3)の達成が不可欠である。今後は計画的な蔵書の充実に努める必要がある。</p> <p>(注3)学校図書館図書標準:公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書冊数の基準を定めたもの。学級数により算出される。(文部科学省が平成5年3月に定めた)</p>															
今後の取組み															
子どもたちにとって最も身近な本に触れられる場所である学校図書館への支援は、読書推進には非常に効果があると考えられるので、今後も段階的に拡充し、最終的には全小中学校への支援員配置に努める。															

重要項目	4	英語教育の推進	担当課名
施策目標	(1)	小学校初期段階からの英語教育の充実	学校教育課
主要事業	①	小中学校の英語教育担当教員の指導力向上／英語外部検定試験	
年度の目標	グローバル化に対応した国際共通語としての英語によるコミュニケーション力の基盤を早期から築くとともに、小中学校を通じて、児童生徒の英語力向上及び教員の英語指導力の向上をめざす。		
計画の概要	<p>「小学校初期段階からの英語教育の充実」 英語の4技能(聞く・話す・読む・書く)をバランスよく身につけるため、小学1学年から、英語の「音」と「綴り」の関係を学ぶ、いわゆるフォニックスを中心とした英語学習を大阪府公立小学校英語学習6ヶ年プログラム「DREAM」を活用して行う。</p> <p>「小中学校の英語教育担当教員の指導力向上」 「授業改善推進リーダー」を中心に、中学校の英語の授業を改善するとともに、小中学校で連携した英語指導力の向上を図ることで、児童生徒の英語力向上をめざす。</p> <p>「英語外部検定試験の受検料を補助」 英語に興味を持ち、目標をもってチャレンジする子どもへの支援として、「GTEC Junior2」、「実用英語技能検定」の受検料の全額補助を行う。また、英検準1級以上等を取得している教員を増やしていくことで、英語教育の推進及び子どもたちが英語に興味や憧れをもつきっかけへと資するよう、教員の「TOEIC L&R」の受検料補助を行う。</p>		
活動の実績	<p>DVDの視聴を中心とした1回15分程度の学習で、英語にくり返し触れることで、自然に英語を身につけることができ、英語の4技能(聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと)を育成することができた。</p> <p>また、年間8回「英語教育担当教員連絡会」を開催し、小中学校で連携した英語指導力の向上を図ることができた。</p> <p>外部検定試験については、全小学6学年児童に「GTEC Junior2」、中学3学年生徒の3級以上の受検者に「実用英語技能検定」、教員の希望者に「TOEIC L&R」の受検料をそれぞれ補助した。</p> <p>平成29年度の実績としては、「GTEC Junior2」は小学6学年児童の全員が受験し、「実用英語技能検定」の中学3学年生徒の3級以上受検者は212名で全体の4割であった。「TOEIC L&R」については、対象である中学校の英語教員と小学校の英語の教員免許所持者のうち、受験者数は10名であった。</p>		
実績の評価	評価の内容		
A	平成32年度の次期学習指導要領に先行して英語学習を実施できるとともに、教員の指導力向上を図る取組みができたことから評価をAとする。		
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳
			国府支出金 地方債 その他 一般財源
28	635 千円	632 千円	0 千円 0 千円 0 千円 632 千円
29	4,407 千円	2,584 千円	0 千円 0 千円 0 千円 2,584 千円
現状の課題			
<p>「DREAM」は学年が上がるごとに内容の難易度も上がるため、指導の工夫が必要である。また、小学3～6学年児童の外国語の時数確保と合わせてどのように実施を継続していくかが懸案事項である。</p> <p>外部検定試験の実施については、どの検定試験がより適切かを判断していく必要がある。</p>			
今後の取組み			
「英語教育担当教員連絡会」を年間通じて開催し、小学校英語教育担当教員、中学校英語科教員、ALTの参加により、実践を通して研究や協議を行い、指導力向上に資する。			

重要項目	5	体力の向上	担当課名					
施策目標	(1)	体力の向上の推進	学校教育課					
主要事業	①	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実施						
年度の目標	<p>教育委員会及び学校が、大阪府や全国的な状況との比較において、体育や部活動および運動会、体育大会などの子どもたちの体力向上に係る取組みの成果と課題を把握し、その改善を図る。 また、体力向上に関するPDCAサイクル(注1)を確立する。</p> <p>(注1)PDCAサイクル:P:計画、D:実行、C:評価、A:改善</p>							
計画の概要	<p>平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査を小学5学年児童、中学2学年生徒に対し、1学期に実施し、12月に示されるその結果を分析して、課題と成果を平成30、31年度の取組みにつなげる。また、市全体としての取組み及び各学校としての取組みを明確化する。</p>							
活動の実績	<p>市内全校で全国体力・運動能力、運動習慣等調査を7月までに実施した。12月の調査結果をもとに、各校体力向上アクションプランを作成し、課題に対する取組みを明確にした。【結果分析】(小学校80点満点、中学校90点満点とした場合の体力合計点の比較) 昨年度と比較すると、小学校では男子で1.31ポイント上回り、女子で1.01ポイント上回った。 中学校では男子で1.27ポイント上回り、女子で1.34ポイント下回った。</p>							
	小学校		H28	H29	中学校		H28	H29
	男子(小5)	全国	53.92	54.16	男子(中2)	全国	42.13	42.11
		大阪府	52.49	52.9		大阪府	40.63	40.39
		四條畷市	50.71	52.02		四條畷市	41.25	42.52
	女子(小5)	全国	55.54	55.72	女子(中2)	全国	49.56	49.97
		大阪府	53.58	53.82		大阪府	48.18	48.46
		四條畷市	51.98	52.99		四條畷市	50.18	48.84
	実績の評価	評価の内容						
A	<p>年度目標である大阪府の平均を、中学校は男女とも上回ることができたが、小学校は男女ともあとわずかの差だが達することができなかった。また、昨年度と比べると小学校は男女とも、中学校は男子で昨年度より1ポイント以上、上回ることができたことから、評価をAとする。</p>							
現状の課題								
<p>小学校において課題を明確にし、日常的な体力向上の取組みと授業での系統的な取組みを継続する。同時に、日常生活のなかで、体を動かすことの楽しさや心地よさ、課題に対して目標を持って進めるよさも体感できるようにする。</p>								
今後の取組み								
<p>全国体力・運動能力、運動習慣等調査をふまえ、各校において結果を分析し、体力向上アクションプランを作成し、普段の授業に体力を高める運動(サーキットトレーニングなど)を効果的に取り入れ、体力向上のための取組みを系統的に行う。 校内においては、運動会やマラソン大会、なわとび大会等を体力の向上を意識しながら効果的に企画し実施することに加え、年間を通して日常的に行える内容を実施していく。 休み時間を利用した体力向上に関する活動を推進していく。</p>								

重要項目	5	体力の向上	担当課名																																																																																								
施策目標	(2)	市民の体力づくり、健康の増進を推進	地域教育課																																																																																								
主要事業	①	市民体育祭、暇歩こう会等の実施																																																																																									
年度の目標	市民がスポーツを通じて健康増進と体力増強を推進し、また、自然とふれあいながら参加者相互の親睦を深め、無理なく体を動かせるように、市民体育祭や暇歩こう会等を中心とした事業を実施し、体力、健康づくりを発展させるための事業を展開していく。																																																																																										
計画の概要	<p>市民の体力づくりや日頃の運動の成果を発揮する場として、5月の第2日曜日に市民体育祭を開催し、様々な種目において、記録に挑戦、対抗する。</p> <p>また、子どもから高齢者まで体を動かす機会を提供し、健康の増進を推進することから、毎月1回の暇歩こう会を実施し、四條暇神社から飯盛山山頂までのコースを歩く。10月にはその成果を表彰するため、暇歩こう大会を実施する。</p> <p>・市民体育祭 今年度は西中学校の工事があったため開催場所を検討を行い、田原地区活性化の見地から、北谷公園とし、玉入れなど10種目を実施した。巡回バスを用意したところ、参加者の延べ人数は450人となった。</p> <p>・暇歩こう会(大会) 毎月の歩こう会については、下記の通りの参加があった。歩こう大会においては参加回数380回を筆頭に、下表の159人の方に認定書の交付を行った。</p>																																																																																										
活動の実績	<p>暇歩こう会の実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催月</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>-</td> <td>147</td> <td>174</td> <td>160</td> <td>125</td> <td>175</td> <td>151</td> <td>155</td> <td>153</td> <td>150</td> <td>167</td> <td>1,557</td> </tr> </tbody> </table> <p>※4月は雨天中止</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>10</th> <th>20</th> <th>30</th> <th>40</th> <th>50</th> <th>60</th> <th>70</th> <th>80</th> <th>90</th> <th>100</th> <th>110</th> <th>120</th> <th>130</th> <th>140</th> <th>150</th> <th>160</th> <th>170</th> <th>180</th> <th>190</th> <th>200</th> <th>210</th> <th>220</th> <th>230</th> <th>240</th> <th>250</th> <th>260</th> <th>270</th> <th>290</th> <th>380</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定者数</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>25</td> <td>19</td> <td>6</td> <td>11</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>159</td> </tr> </tbody> </table>			開催月	4	5	6	7	8	9	11	12	1	2	3	計	参加者数	-	147	174	160	125	175	151	155	153	150	167	1,557	回数	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	130	140	150	160	170	180	190	200	210	220	230	240	250	260	270	290	380	計	認定者数	6	7	25	19	6	11	8	7	8	7	3	5	3	4	4	3	4	1	2	2	3	4	4	4	2	2	3	1	1	159
開催月	4	5	6	7	8	9	11	12	1	2	3	計																																																																															
参加者数	-	147	174	160	125	175	151	155	153	150	167	1,557																																																																															
回数	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	130	140	150	160	170	180	190	200	210	220	230	240	250	260	270	290	380	計																																																													
認定者数	6	7	25	19	6	11	8	7	8	7	3	5	3	4	4	3	4	1	2	2	3	4	4	4	2	2	3	1	1	159																																																													
実績の評価	評価の内容																																																																																										
A	子どもから高齢者まで参加でき体を動かす機会として、市民体育祭、暇歩こう会等、上記の事業が滞りなく完了したため、評価をAとする。																																																																																										
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳																																																																																								
			国府支出金 地方債 その他 一般財源																																																																																								
27	1,627 千円	1,313 千円	0 千円 0 千円 0 千円 1,313 千円																																																																																								
28	1,327 千円	1,070 千円	0 千円 0 千円 0 千円 1,070 千円																																																																																								
29	1,327 千円	1,301 千円	0 千円 0 千円 0 千円 1,301 千円																																																																																								
現状の課題																																																																																											
市民が定期的実施できる機会の場の提供と、ニーズに沿った事業を実施することが必要である。市民体育祭については今年度は田原地区で開催したが、参加者が伸び悩んだ。歩こう会の参加者数も緩やかな減少傾向にある。																																																																																											
今後の取り組み																																																																																											
市民体育祭については市制施行50周年記念事業としてリニューアルするため、30年度は体育関係団体等と内容について検討する。 平成31年度にプレ体育祭として実施し、より市民ニーズを反映できる事業として計画の練直しを行う。 また、定期的実施している運動機会の提供については、毎月1回開催している暇歩こう会を今後も実施していくとともに、スポーツ推進委員主催で毎月2回行うニュースポーツ体験会を新たに事業化する。																																																																																											

重要項目	6	豊かな心の育成	担当課名
施策目標	(1)	人権教育の推進	学校教育課
主要事業	①	多様な人権教育施策	
年度の目標	多様な人権教育の研修を行い、出会いから学んで多様性を認め合えるような学校における教育活動の充実及び教職員の資質の向上をめざす。		
計画の概要	<p>個に応じた一人ひとりの人権を大切にする教育を充実させる研修を実施する。 人権教育においては、差別を許さない児童生徒の育成につながる研修を実施する。 出会いを大切に多様性を認め合える研修を実施する。 内容としては、同和問題、在日外国人問題、多様な性に関する人権のほか、子どもの人権、いじめ、引きこもり等幅広く啓発していく。 差別を解消する3つの法律（「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」、「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」、「部落差別の解消の推進に関する法律」）が平成28年度に施行されており、それらに則った取組み推進を図る。</p>		
活動の実績	<p>経験年数の浅い教職員の人権意識の向上は大きな課題と考えている。昨今のいじめや不登校の事案を鑑みると教職員の人権意識のアンテナの高さが重要となる。そのなかで、教育委員会として、四條畷市人権教育研究協議会（以下、市人研という）に講師の紹介を行うなど連携を図りながら、ともに人権教育の推進を行っている。なお、平成29年度の市人研主催の人権研修を2回開催した。 市人研においては、人権、共生、自己実現の部会に分かれ、子どもたちをとりまく様々な人権課題を明らかにするとともに、人権教育について深めた研究、実践について、市内外に発信した。また、近年の人権課題として、LGBT等の課題が出ており、現在の社会状況に鑑みながら進めることが必要であると認識している。</p>		
実績の評価	評価の内容		
A	四條畷市人権教育研究協議会と連携しながら合同研修を開催し、各学校の教職員に対して人権教育を推進することができたので、評価をAとする。		
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳
			国府支出金 地方債 その他 一般財源
27	700 千円	700 千円	0 千円 0 千円 0 千円 700 千円
28	665 千円	665 千円	0 千円 0 千円 0 千円 665 千円
29	644 千円	644 千円	0 千円 0 千円 0 千円 644 千円
現状の課題			
研修講師の確保や経験年数の浅い教職員のスキルアップへの意識向上、また、市教育委員会主催研修計画の早期立案などが挙げられる。			
今後の取組み			
社会の情勢や子どもの実態を注視しながら、先を見通した研修を計画的に実施していくことが大切と考える。また、研修に参加した教職員が、各校の代表であるという意識をもち、学んだことを各校で広げ、深め、充実させていく役割を担えるような働きかけをしたい。			

重要項目	6	豊かな心の育成	担当課名
施策目標	(1)	人権教育の推進	学校教育課
主要事業	②	四條畷市いじめ問題対策委員会、四條畷市いじめ防止基本方針の策定	
年度の目標	いじめの正確な認知と解消率の向上への取組みの充実や、学校が法に基づいた適切な対応ができるよう、教職員の資質向上と学校の生徒指導体制を充実させる。		
計画の概要	<p>○各小中学校において、Q-U(学級集団状況調査 小学4学年～中学3学年)(注1)を実施し、学級集団状況の把握及び望ましい集団づくりのための方策を検討。</p> <p>○各小中学校において、いじめ・不登校実態調査(年3回実施)を実施。校長会や教頭会、市小中学校生活指導研究協議会等を通じて、指導助言を行う。</p> <p>○教育センター適応指導教室指導員が、学校訪問を行い、巡回指導を行う。また、校内ケース会議の支援を行う。</p> <p>○適応指導教室と学校が連携し、不登校児童生徒の登校復帰の支援を図る。</p> <p>(注1)Q-U:QUESTIONNAIRE—UTILITIES(楽しい学校生活を送るためのアンケート)の略。学級集団の状態や、子ども一人ひとりの意欲や学級集団における居場所や承認度、満足感などを測定できる。</p>		
活動の実績	<p>平成29年度末のいじめ認知件数は小学校全427件、中学校71件で、「いじめ」の積極的な認知が推進された。</p> <p>いずれの事案においても被害児童生徒に対し、教職員が丁寧な聞き取りやケアを行い、家庭訪問等を通じて保護者と連携し、解消を図っている。また、加害児童生徒に対しても、被害児童への謝罪等を通して、反省を促す指導を学校体制として行った。解決が困難な事案については、いじめ問題対策委員からご助言いただき、早期に対応できた。</p> <p>スクールロイヤーを講師として、各校の管理職、生徒指導担当教員を対象に「学校のいじめ対応」についての研修会を実施した。</p> <p>四條畷市教育相談連絡会を実施し、市内4中学校配置のスクールカウンセラー並びにスクールソーシャルワーカーの資質向上と交流促進を図った。</p> <p>Q-U活用研修会を実施し、各教員がQ-Uの効果的な活用法についての理解を深めた。</p>		
実績の評価	評価の内容		
A	校長会を通じて、いじめの積極的な認知について、各校周知徹底が図れた。また、各校、関係機関との積極的な連携が推進され、事案への積極的な対応が推進されたことから、評価をAとする。		
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳
			国府支出金 地方債 その他 一般財源
27	1,533 千円	1,533 千円	0 千円 0 千円 0 千円 1,533 千円
28	1,598 千円	1,530 千円	0 千円 0 千円 0 千円 1,530 千円
29	141 千円	86 千円	0 千円 0 千円 0 千円 86 千円
現状の課題			
不登校児童生徒への支援の充実のための各校と関係機関との連携を強化し、客観的指標を用いた実態把握にもとづく組織的な対応が必要である。また、いじめ等問題行動の未然防止をめざした各校の取組みの推進させ、いじめの認知件数の学校間格差をなくす。			
今後の取組み			
コーディネーター育成研修の実施(年間5回予定)や、学級集団状況調査の継続実施(小学4学年～中学3学年 平成30年6月実施完了予定)、また、いじめ問題対策委員会の開催(年間3回予定)し、教育センター適応指導教室との連携を強化する。			

重要項目	6	豊かな心の育成	担当課名
施策目標	(2)	道德教育の推進	学校教育課
主要事業	①	道德教育推進事業	
年度の目標	<p>子どもが「いのち」について考え、自分自身も他者もそれぞれ大切なかけがえのない存在であること、たくさんの方の関わりや支えがあって生きていることに気づききっかけをつくる。また、その気づきを土台に、自分自身も他者も大切に、それぞれの「違い」を認め合い、尊重し合う姿勢をはぐくむ。</p> <p>中学校区を単位に、地域の実態に応じた工夫ある取組みを推進し、また、学校での道德教育を道德教育推進教師を中心に充実させることにより、子どもの豊かな人間性をはぐくむ。</p>		
計画の概要	<p>子どもたちが自分の「いのち」が何かということ、「自分らしさ」ということに気づき、お互いを大切にしたい、つながって共に生きていきたいと思えるような活動を行う。具体的には、保育所を訪問し、幼児と触れ合う体験をする。</p> <p>道德推進指定校である四條畷南中学校を中心に市内各校の道德、人権教育の推進を図るとともに、児童のみならず教職員及び保護者に対しても啓発し、道德性や人権感覚の醸成を図る。道德の授業づくり研修、地域清掃活動、校内の美化活動、あいさつ運動などを積極的に行う。</p>		
活動の実績	<p>大阪府の道德教育推進事業を活用して、道德の授業づくりに力を入れて取り組んだ。まずは講師を招いて研修会を行い、消極的意識を克服したうえで積極的に実践し、その後、疑問点等を出し合い、講師先生に助言を頂くなどして道德の授業改善に取り組んだ。さらに授業の中で道德ノートを活用し、講師の指導のもと模擬評価に取り組み、道德の評価について研究を深めた。とりわけ昨年度は評価に重点を置き、授業の評価に係る研修を年5回実施した。また、大学教授を招聘し、計画策定への支援をいただいた。</p> <p>地域、保護者と共に豊かな人間性を育むため、参観で道德の授業を行い、共に考える場を持った。地域の方と清掃活動やあいさつ運動を行うことで、生命を大切にすることや、思いやりや感謝の気持ちを持つこと、努力すること、ルールやマナーを守ることの大切さを数多く学んだ。</p>		
実績の評価	評価の内容		
A	<p>市の道德教育の推進として、大阪府の道德教育推進事業と連動して行い、道德教育の授業改善から、お互いに尊重し合えるような授業づくりを研究できた。また、地域への発信として、道德通信の発行や授業参観で保護者参加型の道德授業に取り組むことができたことから、評価をAとする。</p>		
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳
			国府支出金 地方債 その他 一般財源
27	117 千円	117 千円	0 千円 0 千円 0 千円 117 千円
28	300 千円	231 千円	0 千円 0 千円 0 千円 231 千円
29	300 千円	298 千円	0 千円 0 千円 0 千円 298 千円
現状の課題			
<p>本取組みの普及及び啓発や、道德教育推進事業で得た授業づくりのノウハウや、地域、保護者を巻き込んだ多種多様な施策の継承、また、本市の人材や資料など地域特性を活かしたカリキュラムづくりが必要である。</p>			
今後の取組み			
<p>前年度の取組みを継承しつつ、市域全体へと広げていくための具体的な方策を考えていく必要がある。様々な資料や人材を活用して、子どもたちの豊かな人間性をはぐくみたい。</p>			

重要項目	7	郷土愛の醸成	担当課名
施策目標	(1)	郷土学習の推進	学校教育課
主要事業	①	郷土教育副読本「わたしたちの四條畷」(小学3、4学年版)作成事業	
年度の目標	平成28年度に作成した郷土教育副読本「私たちの四條畷」を活用した郷土教育を推進させる。主に小学校の社会科において授業郷土の自然、文化、風土、歴史(遺跡)、先人(偉人)についての学習を深め、生まれ育った郷土「四條畷」について愛着と誇りを持ち、郷土の良さを語れる子どもたちを育成する。		
計画の概要	市内小学3学年児童に郷土教育副読本「わたしたちの四條畷」を配布し、各校の郷土教育の実践を広める。また、副読本を活用した研究授業を実施するとともに、各校の学習展開事例を集約し、各小学校に発信することで、市域全体での郷土学習の推進に努める。		
活動の実績	平成28年度に作成した小学3、4学年児童用の郷土教育副読本「わたしたちの四條畷」を全小学校に配布し、副読本を活用した実践に各校が取り組んだ。 小学3学年では、副読本を持って歴史民俗資料館を訪れ、「昔の道具」を学習し、先人の知恵について理解を深め、4学年では「暮らしを守るしごと」について学習するうえで、本市で活躍されている人物についてインタビューをしたり、学校に招へいし聞き取り学習を行った。 副読本を作成するにあたっては、次期学習指導要領解説にも示された「探究活動」を、一層充実させるよう工夫して作成されている。本副読本を授業で効果的に活用していけるよう、研修会及び研究授業公開を実施した。		
実績の評価	評価の内容		
A	郷土教育副読本の活用について各校の取組みが推進されたので、評価をAとする。		
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳
			国府支出金 地方債 その他 一般財源
27	1,909 千円	1,678 千円	0 千円 0 千円 0 千円 1,678 千円
28	1,302 千円	837 千円	0 千円 0 千円 0 千円 837 千円
29	0 千円	0 千円	0 千円 0 千円 0 千円 0 千円
現状の課題			
「郷土教育副読本」の活用を促進すること、また、「郷土教育副読本」の内容の充実させることが挙げられる。			
今後の取組み			
郷土教育副読本推進委員会により「郷土教育副読本」の活用事例実践例を集め、発信することにより、さらに郷土教育の推進に努める。 「郷土史カルタ」を活用した授業例についても発信することで、教職員の四條畷市の郷土に対する理解を深め、郷土教育を推進することで、子どもたちの郷土を愛する心をより一層育てる。 今後は、「特別の教科 道徳」の内容項目「伝統と文化の尊重」、「国や郷土を愛する態度」等においても活用が見込めるため、研究を進める。			

重要項目	7	郷土愛の醸成	担当課名
施策目標	(2)	文化財の保護と活用	地域教育課
主要事業	①	文化財保護審議会の開催、大阪府文化財愛護推進委員会議と河北文化財愛護推進連絡協議会への参加、飯盛城跡国史跡指定推進事業、開発工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施、雁屋畑線埋蔵文化財発掘調査報告書作成事業の実施、歴史民俗資料館特別展と関連事業の実施、出前講座の実施、小学校校外学習の実施	
年度の目標		<p>【文化財の保護】 市内の貴重な文化財を継承、保護していくために四條畷市文化財保護審議会の開催や大阪府文化財愛護推進委員会議と河北文化財愛護推進連絡協議会へ参加する。 発掘調査に関連する事業として、飯盛城跡国史跡指定推進事業、開発工事に伴う埋蔵文化財発掘調査、雁屋畑線埋蔵文化財発掘調査報告書作成事業を行う。</p> <p>【文化財の活用】 市内の貴重な歴史遺産を愛護し、市民に四條畷の歴史についての認識を高め、文化の向上と発展へと意識を向上させるため、歴史民俗資料館特別展とその関連事業の開催や市民から依頼を受けたなわて出前講座、市内小学3、6学年児童を対象とする校外学習を各学校へ案内し開催する。</p>	
計画の概要		<p>【文化財の保護】 市内の文化財の継承、保護、活用について、文化財保護審議会で審議する。 大阪府文化財愛護推進委員の活動を事務局としてバックアップする。 飯盛城の国史跡指定に向けて、専門委員会を開催し、現地調査等を実施する。 工事により破壊される遺跡の記録保存のため、埋蔵文化財発掘調査を行う。 市道雁屋畑線の新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書を作成するための整理作業を実施する。</p> <p>【文化財の活用】 歴史民俗資料館において第32回特別展を開催するとともに関連事業として講演会と市内遺跡の散策を実施する。 なわて出前講座を活用し、市の歴史について市民の認識を高める講座等を開催する。 市内各小学校へ歴史民俗資料館での体験学習を案内し、全校の利用をめざす。 飯盛城跡に関するシンポジウムなどの周知活動を実施する。</p>	
活動の実績		<p>【文化財の保護】 文化財保護審議会を開催し、飯盛城跡国史跡指定に向けての進捗状況報告と現地視察を実施した。 大阪府文化財愛護推進委員の全体会議と研修会、その下部組織である河北文化財愛護推進連絡協議会の会議及び研修会に事務局として随行したほか、市内の文化財情報などについて情報提供を行った。 飯盛城の国史跡指定に向けて大東市教育委員会と連携して事業を進め、専門委員会を開催して進捗状況の報告と現地調査視察を実施し、その成果について審議を行った。 民間開発工事に伴う埋蔵文化財発掘を3件調査し、古墳時代から平安時代の集落跡と古墳を確認した。 市道雁屋畑線の新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書を平成30年度に刊行するための整理作業を実施した。</p> <p>【文化財の活用】 歴史民俗資料館の常設展示では、市内の発掘調査で出土した旧石器時代から安土桃山時代までの資料を展示、民俗資料展示室では、寄贈された農具などの民俗資料を展示し、本市の歴史や民俗を紹介した。来館者数は、6,525人(1日平均30人)であった。 歴史民俗資料館特別展は、「鷓野讚良皇女(うののさららのひめみこ)―持統天皇と北河内の飛鳥、奈良時代―」と題して、北河内各市をはじめとして明日香村・東大阪など近畿各地からテーマに沿った資料を借用展示するとともに、関連事業として2回の講座と市内遺跡散策を実施した。来館者数は2,284人(1日平均38人)であった。 なわて出前講座をはじめとする講座や市内歴史散策などを実施した。 歴史民俗資料館の体験学習は、小学3学年児童に「昔の暮らし」を学習するため授業の一環として、市内全7校及び寝屋川市立小学校1校からの依頼により、平成30年1～2月の間に、畷古文化研究保存会の協力のもと開催した。小学6学年児童については、学校からの依頼が無かったため実施していない。 飯盛城跡の周知活動として大東市教育委員会とともに、関西城郭サミット2017in飯盛城「三好長慶の城」を開催した。(参加者222人)また、横浜で開催された「お城EXPO2017」へブースの出展を行った。(来場者3日間で延べ19,115人)</p>	

実績の評価		評価の内容				
A		小学6学年の校外学習は、学校からの依頼が無かったため実施していないが、その他については上記の事業が滞りなく完了したため、評価をAとする。				
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳			
			国府支出金	地方債	その他	一般財源
27	4,026 千円	3,421 千円	1,753 千円	0 千円	0 千円	1,668 千円
28	17,740 千円	14,247 千円	7,592 千円	0 千円	0 千円	6,655 千円
29	13,034 千円	7,178 千円	1,589 千円	0 千円	0 千円	5,589 千円
現状の課題						
<p>市内の文化財について継続して調査を行い、その保存、継承、活用のため市指定文化財に指定していく必要がある。</p> <p>飯盛城跡の調査を始め様々な文化財関連事業を実施していくうえで、現状の文化財担当職員で対応するためには、日程調整など多くの工夫が必要である。</p> <p>特別展の入館者数を、更に増加させていくため、周知方法や展示内容などを工夫する必要がある。</p> <p>小学校の体験学習については、郷土の歴史に対する愛着心を育む学習の機会となるため、3学年に加え、歴史を学習する6学年にも利用していただけるように、今後も学校教育課と連携して周知、啓発が必要である。</p>						
今後の取り組み						
<p>市内の文化財の継承、保護、活用について、文化財保護審議会で審議する。</p> <p>大阪府文化財愛護推進委員の活動を引き続きバックアップする。</p> <p>飯盛城の専門委員会を開催し、国史跡指定に向けて測量や発掘を含めた現地調査や関連資料調査を行う。</p> <p>市道雁屋畑線の埋蔵文化財発掘調査報告書の刊行に向けた事業を行う。</p> <p>歴史民俗資料館特別展は、これまでふれられていない古墳時代前期を中心とした特別展を企画する。</p> <p>なわて出前講座では、引き続きわかりやすい講座に努めることで利用の増加をめざす。</p> <p>小学校の体験学習は、3学年に加え、歴史を学習する6学年も利用できるよう今後も学校へ案内を行っていく。</p>						

重要項目	8	就学前教育の充実	担当課名
施策目標	(1)	認定こども園の計画的な整備	子ども政策課
主要事業	①	平成29年度から開設した忍ヶ丘あおぞらこども園の円滑な運営を支援するとともに、今後の岡部保育所の認定こども園移行を検討	
年度の目標	忍ヶ丘あおぞらこども園の円滑な運営を支援する。		
計画の概要	平成29年度から開設した忍ヶ丘あおぞらこども園の円滑な運営に向け、こども園会議を開催する。岡部保育所の運営形態について、公立子育て支援施設の役割を踏まえ、認定こども園移行を検討する。		
活動の実績	<p>忍ヶ丘あおぞらこども園の円滑な運営に向けて、8月及び3月にこども園会議を開催、子ども政策課職員が園の行事(出会いの日、入園式、夏の夕べ、夜のつどい、運動会、発表会、卒園式)に参加、保護者アンケートと職員アンケートで調査を行いながら、課題を整理し支援に努めた。アンケート調査では、認定こども園の特徴である保護者が仕事を辞めても子どもが園に通い続けられることや、教育と保育を一体的に受けれること等について、8割以上の保護者が肯定的な回答をされた。</p> <p>また、この保護者アンケートの結果をもとに、今後の岡部保育所の運営形態について、認定こども園移行を検討した。</p>		
実績の評価	評価の内容		
A	上記実績により、計画通り実施できたことにより、評価をAとする。		
現状の課題			
市立認定こども園として忍ヶ丘あおぞらこども園を開設した後も、保育内容や行事など細部にわたり整理していく必要がある。また、認定こども園では、保育士資格と幼稚園免許が両方必要になることから、免許の更新等が必要な職員については、受講する必要がある。			
今後の取組み			
今後も検討を重ね、カリキュラムの作成や行事の実施方法の工夫を行いながら、教育保育を一体的に実施していく。今後の岡部保育所の運営形態については、公立子育て支援施設としての役割を踏まえ、保護者アンケート等を経て方針を定め進めていく。			